

店の精肉コーナーに整然と並べられたパック商品の数々。鶏・豚・牛、プロック・スライス・ミンチなど、種類も形状も量も違う、様々な肉のパック商品を作っているのは『CO・OPふらいる』の精肉担当として働く釘宮淳江さん(65歳)と後藤美枝さん(65歳)。パックヤードで肉をカットし、パックに詰め、値札を付けることで精肉を商品化し、売り場に並



精肉担当の仲間と田中徹也店長(右端)と一緒に。

『CO・OPふらいる』で、精肉担当として勤務してきた。同じ年齢の二人は、同店舗で長く一緒に働いてきた、気の合う仲間である。共に60歳で定年を迎えたが、現在は、同社を定年退職後に60歳から70歳まで働くことができる「シニア定時職員(定時職員+パート)」という社内制度により雇用されている。  
「シニア定時職員の制度は知っていましたが、ここを定年退職したら、今とは違う仕事をしてみるのもいいかな。ハローワークに行ってみよう」と思ったこともあるという釘

いる」の精肉担当として働く釘宮淳江さん(65歳)と後藤美枝さん(65歳)。パックヤードで肉をカットし、パックに詰め、値札を付けることで精肉を商品化し、売り場に並

宮さん。一方、後藤さんは、「定年後も今の職場で働けるなら、ぜひシニア定時職員として働きたい」と思っていたそう。そんな後藤さんの思いを知ったこともあって、釘宮さんも「シニア定時職員」として、これまでと同じ職場で働くことを選んだ。二人なら心強いというのがあるが、やはり、二人ともこの職場と仕事が好きだったことが大きな決め手となったようである。  
「昔、お世話になったチーフが、この仕事の楽しさを教えてくれたんです。チーフが出す課題を仲間で一丸となって乗り越えることで、仕事への意欲がかき立てられて…」という釘宮さんは、職場や仕事に対して並々ならぬ愛着を抱いているようだ。

「食べることが好きで、お肉も大好きだから26年間精肉を担当して、一度も嫌になつたことはなかったです。きれいな肉を見るとつとりしてしまいますね(笑)。肉を切るの楽しいんですよ」と後藤さん。仕入れた肉をカットして二つの商品へと作り上げる、二種のものづくりに携わる仕事そのものに楽しさや喜びを感じているという。  
「シニア定時職員」という雇用形態に変わっても、仕事内容は以前とまったく変わらない。毎日8時頃から店がオープンする9時30



慣れ親しんだ  
職場で働き続ける。

(左)後藤美枝さん、(右)釘宮淳江さん。

## 体が動く限り、働きたい。

べるのが主な仕事である。  
釘宮さんは平成10年より『CO・OPふらいる』を含むコープおいたの3店舗で、後藤さんは平成3年のオープン当時からずっと

分までは、オープン前に並べる商品作りで忙しい。特売日やクリスマス、年末年始など商品が多く出る日は、よりたくさん商品が早く作り上げる必要がある。また、売り場の商品が不足しないように、随時商品を補充するのも大切な仕事だ。何よりも、生肉と刃物を扱うため、安全と衛生に細心の注意を払わなければならない。スムーズに仕事を運ぶためには二人ひとりの技術の高さとチームワークの良さが大事だという。  
精肉担当は現在11名。他の職員は、釘宮さんと後藤さんの子ども世代の年齢層が多い。精肉担当として豊富な経験と高い技術を持つ二人は、最近では若い世代を育て



かがやき  
シニア  
最前線!

生活協同組合コープおいた  
CO・OPふらいる  
釘宮 淳江さん(65歳)  
後藤 美枝さん(65歳)



ベテラン二人による鮮やかな手さばきは見事。

ることも意識しているそう。  
生き生きと前向きに働く二人に、仕事の原動力は何なのか、聞いてみた。  
「東京に住む初孫ですね。かわいい孫のためにいろいろ買ってあげたい!と思うと頑張れます(笑)。自分の健康のためにも、働いてほしいですね」と釘宮さん。  
「夫婦共に十数年来のトリニータサポーターで、大分はもちろん、アウエーにも応援に行くことを楽しみにしています」と後藤さん。  
仕事を持つことで私生活にもハリが出て、より充実した日々を過ごせているようだ。  
最後に、「高齢者の仕事はあまりない」と思っている人が多く、必しもそうではないと思えます。働きたいと思ったら、躊躇せず、仕事を探してほしいです。私たちがこうして明るく元気に働いていますから。これから働きたいと思っている高齢者の方にとって、私たちの姿が少しでも励みになればと思っています」とメッセージをくれた。「体が動く限り、がんばって働きたい」と、70歳まで働くことに意欲的だ。